Report
［査読無し］ 報告

女子大学のリカレント教育の現状と今後の展望（その２）

Present conditions and future prospects of recurrent education at women's colleges and universities (part2)

平井 郁子[1]，辻 幸恵[2]
[1]大妻女子大学キャリア教育センター，[2]神戸学院大学経営学部

Ikuko Hirai[1], Yukie Tsuji[2]
[1]Career Educational Center, Otsuma Women's University
12 Sanban-cho, Chiyoda-ku, Tokyo, 102-8357 Japan
[2]Faculty of Business Administration, Kobe Gakuin University
1-1-3 Minatoshima, Chuo-ku, Kobe, 650-8586 Japan

キーワード：女性，リカレント教育，再就職，老後，生きがい
Key words：Women, Recurrent education, Re-employment, Old age, Reason to live

抄録

女子大学における環境や建学の精神を生かした魅力的なリカレント教育を導きだすことを目的に、前回に引き続きリカレント教育について検討する。一つは結婚・出産を機に家庭に入り、子育てが一段落したことにより、再度仕事に復帰するという再就職のためのリカレント教育がある。もう一つは仕事を退職し、あるいは家庭の雑務から解放された女性が、生きがいのある有意義な後半の人生を送るためのリカレント教育である。この両者がどのようなリカレント教育を望んでいるのかアンケート調査をする。更に、関東、中部、関西、九州の主な女子大のリカレント教育への取組の聞取り調査をする。リカレント教育として各大学様々なものに取組んでいるが、今後のリカレント教育の方向性はどうあったら良いかを検討する。

１．はじめに

2021 年度に調査した『女子大学のリカレント教育の現状と今後の展望』[1]に引き続き 2022 年度もリカレント教育の調査を実施した。まず、母集団を変えて「出産後専業主婦となり、子どもの手が離れた時期に再就職を希望する層」、「60 歳～65 歳で定年退職をした層」、この 2 つの層が大学教育に何を求めるかをアンケート調査により求める。

また、東京、名古屋、京都、神戸、福岡の主な女子大が現在行っているリカレント教育を調査し各大学のリカレント教育の特色を探る。

最後に本学のリカレント教育がどのようにあるべきなのか、アンケート調査、および各大学の実態調査を基に検討したので報告する。

２．調査方法

2.1.　アンケート調査

アンケート調査は NACS（公益法人日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談委員協会）を窓口とし、全国の NACS 会員 25 歳～70 歳代までの女性 74 人を対象にアンケート調査を実施した。回答期間は 2022 年 7 月～8 月、回答はすべて匿名とした。アンケート調査内容は、文部科学省や経済産業省が、社会人を対象に学び直しを実施したアンケート調査用紙[2],[3]を参考に、昨年度主婦連合会で実施したアンケート内容を修正したものを使用した。

（1）アンケート調査内容

質問項目：年齢、最終学歴、専攻分野、現住所の都道府県、就労経験、現在の職業、1 年間の収入、大学での学ぶ意識、学びの理由、プログラムへの興味、資格への興味、趣味やボランティア、学びの受講時間、時間帯、受講回数、受講期間、授業料の許容範囲、その他である。

（2）アンケート方法

今回は、回答率を上げるため、Google フォームを用いて、Web でのアンケート調査を実施した。

（3）アンケート調査対象者

25 歳～70 歳代の女性（74 人）にアンケート調査を実施した。

2.2.　大学で実施しているリカレント教育

主な大学で実施している女性のリカレント教育（生涯教育、公開講座などを含む）の特徴、対象、長所・欠点等などを調査する。

（1）調査方法

訪問、聞取り調査を実施した。

（2）調査対象

・令和 2 年度　女性の多様なチャレンジに寄り添う学びと社会参画支援授業:文部科学省[4]

・令和 2 年度　就職・転職支援のためのリカレント教育推進事業実施プログラム：文部科学省[5]

・マナパス　特集：女性のための学び直し：文部科学省[6]

上記の対象校及び大学独自のリカレント教育に取り組んでいる大学からいくつかの大学を選び、訪問し、聞取り調査を実施した。

３．結果及び考察

3.1.　アンケート調査

アンケート調査に協力いただいた NACS 会員（74 人）を「出産後専業主婦となり子どもの手が離れた時期に再就職を希望する層」、「60 歳～65 歳で定年退職をした層」が大学教育に何を求めるかを調査するため、25 歳～60 歳未満（39 人）と 60 歳～70 歳代（35 人）の 2 つのグループに分けて学びについての違いを見ることにした。今後、25～60 歳未満の層を 60 歳未満、60～70 歳代の層を 60 歳以上とする。

（1）アンケート質問項目と結果

学歴:アンケート対象者（NACS）の学歴（表 1）は、60 歳未満、60 歳以上でも同様に高い。大学院、大学、短大卒業者は、60 歳未満（92.4%）、60 歳以上（85.7%）、全体（89.2%）と、かなり学歴が高い。これは『消費生活アドバイザー』検定試験に合格した人たちであること、消費者問題に興味を持ち、社会に目を向けている集団であることが考えられる。

表 1.　アンケート調査対象者の学歴

学歴人（%）	60 歳未満	60 歳以上	25～70 歳代
大学院	6（15.4）	5（14.3）	11（14.9）
大学	26（66.7）	19（54.3）	45（60.8）
短期大学	4（10.3）	6（17.1）	10（13.5）
専修学校	1（ 2.6）	1（ 2.9）	2（ 2.7）
高校	2（ 5.1）	2（ 5.7）	4（ 5.4）
未回答	0（ 0）	2（ 5.7）	2（ 2.7）
計	39（100）	35（100）	74（100）

専攻分野：学歴が高いので、専攻分野に特徴があるのか、集団の学歴の専攻を見てみる（表 2）。学歴の専攻は、人文科学、家政学、社会科学が多いことが分かった。特に 60 歳以上にこの傾向が強い。60 歳未満もこの傾向はあるが、自然科学系、商学、法学などもあり、現代の進学状況を反映している。

表 2.　アンケート調査対象者の専攻分野

学部人（%）	60 歳未満	60 歳以上	25～70 歳代
人文科学	9（23.1）	13（36.1）	22（29.3）
家政	6（15.4）	6（16.7）	12（16.0）
社会科学	7（17.9）	5（13.9）＊	12（16.0）
農学	5（12.8）	0（ 0.0）	5（ 6.7）
理学	4（10.3）	0（ 0.0）	4（ 5.3）
商学	2（ 5.1）	0（ 0.0）	2（ 2.7）
法学	2（ 5.1）	1（ 2.8）＊	3（ 4.0）
教育	0（ 0.0）	3（ 8.3）	3（ 4.0）
保健・工学	1（ 2.6）	2（ 5.6）	3（ 4.0）
専攻なし	3（ 7.7）	6（16.7）	9（12.0）
計	39（100）	36（100）	75（100）

＊２つの学部を卒業しているためそれぞれカウントする。

居住地：アンケート対象者（NACS）の居住地（表 3）は、関東近隣、特に東京が多い。関東地方だけで 25～60 歳未満（66.6%）、60 歳～70 歳代（68.6%）、全体（67.6%）と、過半数を超えている。少ない人数ではあるが、関西、中国、九州、海外に居住している方もいる。

表 3.　アンケート調査対象者の居住地

居住地人（%）	60 歳未満	60 歳以上	25～70 歳代
東京	13（33.3）	18（51.4）	31（41.9）
神奈川	5（12.8）	1（ 2.9）	6（ 8.1）
千葉	6（15.4）	4（11.4）	10（13.5）
埼玉・茨木	2（ 5.1）	1（ 2.9）	3（ 4.1）
長野・愛知	2（ 5.1）	1（ 2.9）	3（ 4.1）
京都・兵庫	0（ 0.0）	2（ 5.7）	2（ 2.7）
広島・山口	4（10.3）	4（11.4）	8（10.8）
福岡	1（ 2.6）	0（ 0.0）	1（ 1.4）
フランス	0（ 0.0）	1（ 2.9）	1（ 1.4）
白紙	6（15.4）	3（ 8.6）	9（12.1）
計	39（100）	35（100）	74（100）

職業の有無：当然フルタイムで働いているのは、60 歳未満が多く、職業は会社員、公務員、自営業と続く。60 歳以上は、60 歳未満の約 1/3 ではある

が、職業は自営業、会社員の順となる。パート・アルバイトは、60 歳以上が僅かに多いが、専門職（弁護士、医師、看護師など）、社外取締役なども含まれている。また、無職中では、60 歳未満が「今後求職予定」がほとんどであるが、60 歳以上では、「当面求職予定無し」がほとんどである。（図 1）

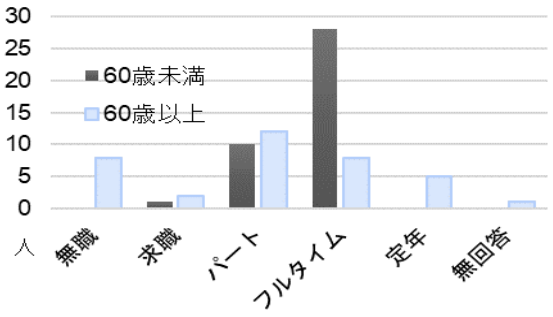

図 1.　二つの年齢層の職業の有無

学ぶ意欲：職業の有無にかかわらず、学ぶ意欲は、二つの層には差が少なく、どちらも学びたい意欲は大きい。（図 2）

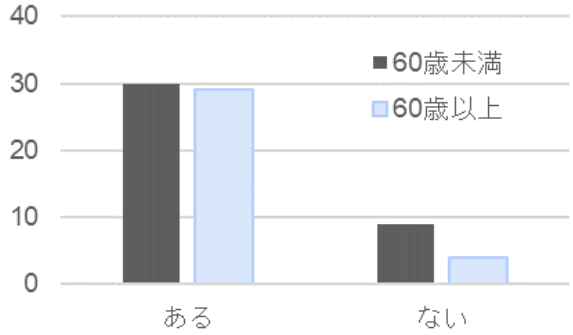

図 2.　二つの年齢層の学ぶ意欲の比較

学びたい理由：次の 1 ～10 項目から選択（3 つまで選択可）で尋ねた。

1．現在の仕事のスキルアップ
2．転職のため
3．再就職のため
4．資格を取得するため
5．学位を取得するため
6．昇進のため
7．人的なネットワークを得るため
8．生きがいを得るため
9．ボランティアをするため
10．その他

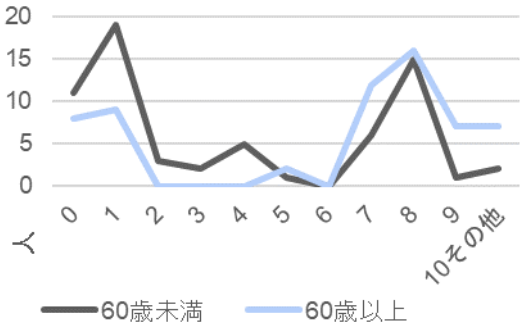

図 3.　大学で学びたいと思う理由

60 歳未満は、「1.現在の仕事のためのスキルをアップ」、「8.生きがいを得るため」が多くなっている。次に「4.資格を取得するため」、「7.人的なネットワークを得るため」となっている。

60 歳以上では、「8.生きがいを得るため」が最も多く、次に「7.人的なネットワークを得るため」が多く、「1.現在の仕事のためのスキルアップ」、「9.ボランティアするため」の順になる。どちらの層も「8.生きがいを得るため」が多くなっていることが興味深い。両者の相関係数は 0.662 となり、傾向が似ている。（図 3）

何を学びたいのか：語学、経営戦略、財務会計、マーケティング、広報・ブランド戦略、人事・労務、法務、統計・データ解析、プログラミング、マネージメント、リーダーシップのスキル、ロジカルシンキングなどのスキル、介護に関するスキル、保育に関するスキル、食生活に関するスキル、衣生活に関するスキル、IT に関するスキルの 17 項目について 5 段階評価（5：とても興味がある、4：やや興味がある、3：どちらでもない、2：あまり興味がない、1：全く興味がない）で回答してもらった。

その結果（図 4）、両者の相関係数は 0.749 と強い相関がある。また、両者の学びたい順から第 1 位：保育に関するスキル（3.68）、第 2 位：介護に関するスキルと衣生活に関するスキル（3.33）、第 4 位：人事・労務（3.31）、第 5 位：財務会計（3.29）、第 6 位：プログラミング（3.26）、第 7 位：法務（3.09）と続く。第 1 位の保育に関するスキルは、60 歳未満は自分の子どもの育児、60 歳以上は孫の育児に関心があるのではないかと考える。第 2 位の介護に関するスキルは、高齢化社会において身近な家

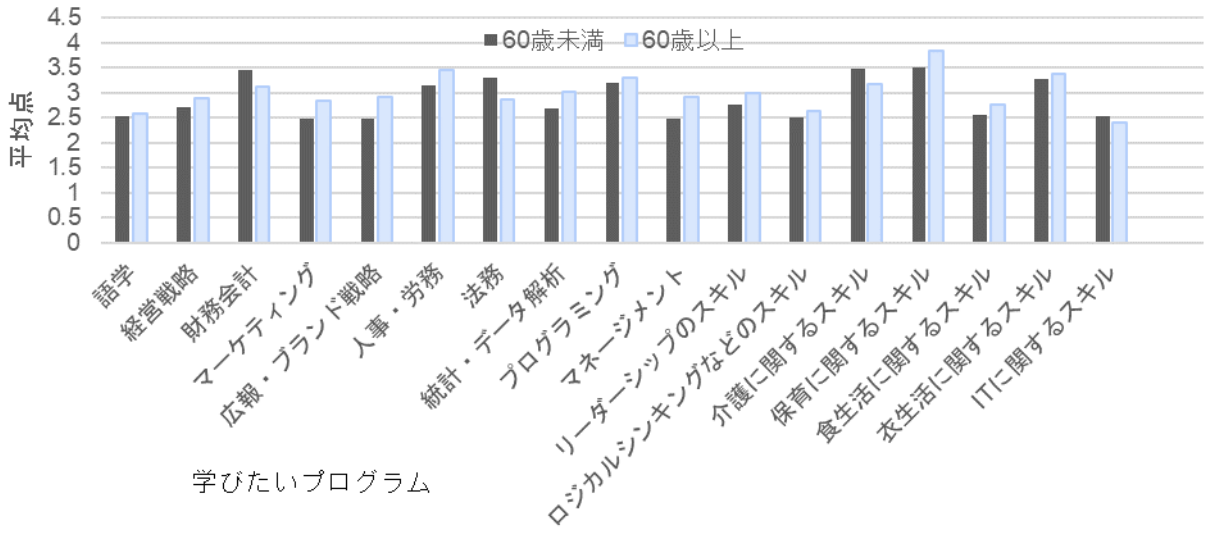

図 4.　二つの層の学びたいプログラム（平均値からの比較）

族などに対する将来の備えや準備などのために関心があると考える。衣生活に関するスキルは生きがいとの関係があるのではないかと考える。衣生活と言ってもアパレルということではなく、手芸、和服、伝統工芸などに興味があるのではないかと考える。

表 4.　二つの層の学びたいプログラムの比較

学びたいもの　（順位）	60 歳未満	60 歳以上
語学		○
経営戦略		○
財務会計　(5)	○	
マーケティング		○
広報･ブランド戦略		○
人事･労務　(4)		○
法務　(7)	○	
統計･データ解析		○
プログラミング　(6)		○
マネージメント		○
リーダーシップのスキル		○
ロジカルシンキングなどのスキル		○
介護に関するスキル　(2)	○	
保育に関するスキル　(1)		○
食生活に関するスキル		○
衣生活に関するスキル　(2)		○
IT に関するスキル	○	

○印　二つの層のうち学びたい人が多い方
（数字）二つの層が学びたい順位

さらに二つの年齢層の比較をしたものを表 4 に示す。年齢層では、60 歳以上の方が 60 歳未満の層より学びたいものが多い。これは、60 歳以上の層のほうが、時間に余裕があり、学ぶことに時間を回すことができるようになったためではないかと考える。まさに生きがいやボランティアのために学びたいということであると考える。60 歳未満の層は、第 2 位：介護に関するスキル、第 5 位：財務会計、第 7 位：法務が学びたいものが 60 歳以上の層より多くなっている。更に、60 歳未満の層が多くなっているものに「IT に関するスキル」があるのが興味深い。これは仕事などで実際に IT を使用する頻度が 60 歳以上の層よりも多いこと、実際の仕事に役立つもの、自分のスキルを磨きたいということが理由と考えられる。

科目等履修可能なプログラム：履修可能なプログラム形式の比較を表 5 に示す。科目等履修可能なプログラムの受講形式を対面形式、オンライン形式、ハイブリッド形式のいずれかを選択してもらった。受講形式は、60 歳未満の層、60 歳以上の層ともにハイブリット形式の希望が多い。これは、科目によって、あるいは個人の都合によりどちらでも選択できるためにハイブリット形式に人気があると考えられる。

また、対面形式よりは、オンライン形式が両者とも多くなっている。コロナ禍以降、オンライン形式が多く、居住場所などの理由が考えられる。

表 5. 履修可能なプログラム形式の比較

	60 歳未満	60 歳以上
対面形式	20.5%	25.7%
オンライン形式	30.8%	28.6%
ハイブリット形式	46.2%	37.1%
無回答	2.6%	8.6%

受講時間：科目等履修可能なプログラム形式の比較を表 6 に示す。60 歳未満は 60 分が半分以上を占めている。また、60 歳以上は 90 分が半分以上を占めることが分かった。60 歳未満は子育て、家事、仕事に追われ、時間的余裕がないが、一方 60 歳以上は時間的に余裕があるためと考えられる。

表 6. 科目等履修可能なプログラム形式の比較

	60 歳未満	60 歳以上
60 分	51.3%	28.6%
90 分	41.0%	51.4%
120 分	2.6%	11.4%
180 分	2.6%	2.9%
無回答	2.6%	5.7%

受講時間帯：受講時間帯の比較を表 7 に示す。60 歳未満は平日の夜間と休日の午前の受講希望者が多かった。60 歳以上は平日の夜間と平日の午前の受講者が多かった。休日の午前と平日の午前の違いは、仕事の有無の違いと考えられる。

表 7. 受講時間帯の比較

	60 歳未満	60 歳以上
平日の午前	5.1%	22.9%
平日の午後	10.3%	14.3%
平日の夜間	28.2%	28.6%
休日の午前	28.2%	11.4%
休日の午後	15.4%	11.4%
休日の夜間	12.8%	0.0%
その他	0.0%	5.7%
無回答	0.0%	5.7%

受講回数：受講回数の比較を表 8 に示す。60 歳未満、60 歳以上ともに週 1 回の受講が最も多い。集中的に学習するよりもコンスタントに勉強したいという今までの経験からと考える。

表 8. 受講回数の比較

	60 歳未満	60 歳以上
週 1 回	69.2%	65.7%
週 2 回	20.5%	25.7%
週 3 回	0.0%	2.9%
その他	10.3%	0.0%
無回答	0.0%	5.7%

受講期間：受講期間の比較を表 9 に示す。60 歳未満は 3 ヶ月、60 歳以上は 6 ヶ月の受講期間が多い。これも受講時間同様、60 歳未満は時間に余裕がなく、短期に集中して学びたいということではないかと考えられる。しかし、受講期間 1 年間が 60 歳未満の方が 60 歳以上よりも希望者が多いことは、スキルを身に付けるためには、じっくり勉強したいという意識が感じられ、興味深い。

表 9. 受講期間の比較

	60 歳未満	60 歳以上
3 ヶ月	51.3%	37.1%
6 ヶ月	33.3%	48.6%
1 年間	12.8%	8.6%
その他	2.6%	0.0%
無回答	0.0%	5.7%

受講料の許容総額：受講料の許容総額の比較を表 10 に示す。60 歳未満、60 歳以上の受講料の許容総額が多いのは、3 万円以上 5 万円未満が最も多い。60 歳未満は 5 万円以上 10 万円未満と高額

表 10. 受講料の許容総額の比較

	60 歳未満	60 歳以上
無料	5.1%	5.7%
1 万円以上 2 万円未満	7.7%	22.9%
2 万円以上 3 万円未満	10.3%	14.3%
3 万円以上 5 万円未満	28.2%	22.9%
5 万円以上 10 万円未満	17.9%	11.4%
10 万円以上 15 万円未満	7.7%	2.9%
15 万円以上 20 万円未満	2.6%	2.9%
20 万円以上 30 万円未満	5.1%	2.9%
30 万円以上 50 万円未満	2.6%	2.9%
50 万円以上	5.1%	0.0%
その他	5.1%	2.9%
無回答	2.6%	8.6%

にも多いが、60 歳以上は 1 万円以上 2 万円未満と少額に多い。これは 60 歳未満が正社員も多く、収入も多いためと考えられる。その他、「内容により許容総額が異なる。」、「資格などを取る場合は、20 万円以上 30 万円未満」、「趣味の場合は 3 万円以上 5 万円未満」という意見もあった。60 歳以上は、学ぶ理由が「生きがい」、「ボランティア」が多いため、許容総額が少額の方に偏っていると考えられる。

3.2.　カレント教育の聞取り調査

今回の聞取り調査では、関東の女子大学 2 校、中部の女子大学 1 校、関西の女子大学 2 校、九州の女子大 2 校、計 6 校を対象にした。聞き取り調査の対象に選んだ理由は、本校と同じようなカリキュラムを持つ女子大であり、リカレント教育に取り組んでいる大学を選んだ。このリカレント教育への取組には、文部科学省の就職・転職支援のための大学リカレント教育推進事業[5]、実践力育成プログラム（BP）[7]や女性の多様なチャレンジに寄り添う学びと社会参画支援事業[4]、厚生労働省の専門実践教育訓練指定講座[8]に指定されている大学、さらに教育課程に「リカレント」とは、うたっていない大学も含まれる。各大学のすべてのリカレント教育を網羅したものではないが、聞取り調査した 6 つの女子大学のリカレント教育に関するプログラムを表 11 に示す。但し、各大学のプライバシー保護のためプログラム名をそのまま書き写すことは避けている。

A、D、F は文部科学省や厚生労働省の指定講座としてリカレント教育課程を前面にだしている大学である。

A は 2 つのリカレント教育課程をもつ。再就職プログラムと、就労者のスキルアップ講座がある。再就職のプログラムの入学条件は、大卒以上、入試（英語、ICT）と厳しいが、ほぼ就職先が決まる魅力的な講座である。平均 40 歳代、他大卒が 74.4%ということである。また、リカレントオリジナルプログラムに学部や大学院、通信教育課程の科目、生涯学習センターの講座・公開講座などを組み合わせたプログラム編成は、合理的と考える。他が半年、あるいは短期のプログラムであるが、A は 1 年間である。受講形式はコロナ禍が下火にはなってきたが、A に限らず対面とオンライン両方でのプログラムとなっている。

D は 3 つのプログラムを持つ。1 つは再就職のためのウォーミングアップで、教養科目の導入から会社法などまで履修できる。さらに企業との交流イベント、女性向けハローワークなど、中小企業との連携も手厚い。35 歳後半～40 歳前半の子育て終了者が多い。面接試験があるが、他大出身が多い。2 つ目にビジネススキル向上、ＤＸ知識向上のためのプログラム、3 つ目に管理職育成のためのプログラムなどがある。この 2 つのプログラムは、面接試験とＰＣテストがある。平均 40 歳前半で、こちらも他大出身が多い。

F も 3 つのプログラムをもつ。1 つは再就職プログラムで、面接試験がある。高卒以上で 30 代が中心である。ドラフト会議での発表により企業からの引き合い、面談、インターンシップを経て就職する者も多い。他 2 つはビジネススキルプログラムで、リーダー育成（中間管理職）とトップリーダー育成がある。後者は、協力企業から派遣された 40～50 歳代のトップリーダーを目指すもの対象で、宿泊研修プログラムである。

このようにA、D、F のリカレントプログラムは、再就職のためのリテラシーとＤＸ時代のリスキリング（Reskilling）に分けることができると考える。再就職は、30 代後半～40 代前半の子育て一段落時期、リスキリングは 40 歳代中心が参加している。更に 3 つの大学の参加者数の平均は 20.6 人（2022）と全体的に少ない。

B、C、E は「リカレント」ということを直接うたったプログラムではないが、それぞれ特徴あるリトレーニング、リスキリングプログラムを持っている。

B はビジネススキル研修の充実したプログラムを行っている。特徴は大手企業約 40 数社と提携契約し、提携会社のスキルアップ研修を行っている。それは、女性新人課長、女性管理職、男女課長・企画担当、男性管理職、男女役員対象のビジネススキル研修プログラムである。大変充実し、個人、非会員企業の参加もできるが、提携企業からの年会費による運営は、大変合理的に思える。また、セミナー、オーダーメード研修、交流会などを通じて参加企業との連携を強めている。企業と学生・教員との連携研究などもある。更に 2023 年度から 1 年制の男女共学の専門職（社会福祉士、保育士など）の大学院のスタートがる。これは専門職のキャリアアッププログラムである。他にこの

表 11. 聞き取り調査した女子大の比較

	プログラム	科目等	入学条件	平均年齢	その他
A	再就職☆△	英語、IT リテラシー、マネージメント 簿記、貿易事務、社会保険労務士など	英語・ICT、 大卒以上	40 歳	4 月開講 1 年間 対面・オンライン
	ビジネススキル☆△	ビジネス英語、IT リテラシー、管理会計 メンタルヘルス、金融経済、起業など	面接、高卒以上、 大学受験資格 就労中・就労経験のある社会人女性	43 歳	平日夜間・週末 半年間 オンライン
B	ビジネススキル	大手企業と提携　研修プログラム 女性新人課長対象、女性管理職対象 男女課長・企画・プロジェクト業務担当者 男性管理職対象、男女役員対象	提携会社社員、個人 各プログラム定員 20～25 名	30 歳代～40 歳代 管理職、役員 50 代、60 代	平日午後・土曜 1 回 4 時間 7 回コース 対面
C	再就職・ウォーミングアップ ブラッシュアップ	センターによる講座、相談、研究 ブラッシュアッププログラム 仕事再開準備プログラム 相談：キャリア、子育て 研究：理論と実践など	地域全体　主に卒業生対象（入試無し） 予約制（カウンセル） 学生：教養講座で研究成果を講義		土曜日午後 90 分 オンライン カウンセル （対面）
D	再就職・ウォーミングアップ	教養科目：文化論など キャリア科目：キャリアデザイン、PC 基礎、英語、会社法、マーケティングなど （企業との連携、女性向けハローワーク）	面接試験 高卒以上	30 後半～40 歳前半 子育て一段落	平日週 2－3 通学 オンライン 半年コース 企業との交流イベント
	再就職・スキルアップ☆	DX、数学、DS、人的資源管理、ライティング、AI リテラシーなど	面接試験　PC テスト	40 歳前半 正社員	土曜日通学 オンライン 半年コース
	管理職育成☆	リーダーシップ実践、コーチング、 マネ-ジメント、デジタルスキル	面接テスト、PC テスト	40 歳前半	土曜日通学 オンライン 半年コース
E	DX 各資格取得	Web、DTP・動画、IT・パソコン プログラミング、コミュニケーション ビジネス、人材育成、資格、公務員試験	専門業者委託して授業する 校外にて授業	主に学生、卒業生	クラス・個別指導 （Web・通学） e-ラーニング
F	再就職☆	インターンシップ ドラフト会議 個別相談 （発表により企業からの引き合い⇒面談⇒インターンシップ⇒就職）	面接試験　（2022） 不正規で仕事をしている方 高卒以上	30 代中心	対面⇒オンライン （受講生を多くするため） 半年間
	ビジネススキル☆ 女性リーダ育成	リ-ダーシップ 創造性 イノベーション　ビジネスに結び付ける	学歴を問わない 年齢を問わない 基本大卒 中間管理職	40～50 歳	5 月-12 月 オンライン 12 回 対面 3 回 卒業発表
	ビジネススキル 女性トップリーダー育成	対話型コミュニケーション ファシリテーションスキル イノベーションの実践	協力企業からの派遣 （大卒）	40～50 歳	3 日（宿泊研修） 1 日（フォローアップ研修） 対面 満足度 100%

（☆印は文部科学省（BP）、△厚生労働省の給付金対象講座）

大学では教職リカレント教育プログラム（文部科学省委託事業）も行っている。

Ｃは研究センターを設け、女性が社会で力を発揮できるように、多彩な学習プログラム、専門家によるキャリア相談、交流イベントなどを実施している。2018 年度の秋の講座では、仕事再開準備プログラム、働く女性のブラッシュアッププログラムなどを開いている。また、これらの講座とともにキャリアについての相談、子育ての相談にも応じている。更にここで得られた経験を基に研究をし、その研究成果を発信している。学生には正課授業（必修授業）の中で、これらの研究成果の授業を受講している。Ｃで最も興味を惹かれたのは、子どものためのセンターである。女性が外で仕事をするとき、一番気になるのが子どものことである。ここは広い土地を生かし、外遊びができる庭園と、広い室内の遊び場を提供している。保育園の建物が大学内にあるというイメージであるが、0 歳～2 歳児までの親子の遊び学習の場である。親子での参加しか認めていない。核家族となり子育て経験の少ない親の子育て相談、遊びの相談ができるところである。親子の造形教室、ヨガ教室なども開催している。学生はゼミ、サークルとしてセンターの活動に参加している。コロナ前は 1 日 60 組～100 組であったが、コロナ禍となり 1 日 25 組に制限し、ボランティアも含めて 6 人のスタッフで 3 人ずつ常に館内に在籍している。来館は卒業生やＨＰの口コミも多く、遠くからくる親子も多い。その他、発達に困難を抱えている子どもを継続的な支援活動もしている。3.1.アンケートで学びたいもの「第 1 位：保育に関するスキル」とあったが、核家族化による子育て経験の少ない今日、このような遊びの指導、子どもとの接し方を学ぶ場が必要となると考える。

Ｅは研究所の中に女性活躍部門、ダイバーシティ部門、人材育成部門、キャリア支援部門を持つ。キャリア支援部門では、卒業生を対象にしたリカレント教育のアンケート調査を実施している。この調査の報告書[9]から卒業生は、リカレント教育を必要とするものに、卒業学科関連プログラム、ビジネス、IT・情報、マネージメント、起業、管理職などのニーズをあげていると報告されている。

このＥにおいて興味を惹かれたのは、資格（カリキュラム履修による資格以外）を学生に取得させることに積極的で、業者の手厚いサポートを行っていることである。1 つの業者はスタッフが学内に常駐、受験手続などを一手に引き受け、学生は学内でこれらのサービスを受け資格を取得することができる。もう 1 つの業者は資格講座のオンデマンド視聴・オンラインライブ講座を提供するものである。学生はどちらかを選択し、資格を取ることができる。このためＥでは、学生の資格取得率が高くなっている。

2023 年度からＥでは卒業生のアンケートを基に、リカレント教育をスタートさせた。聞取り調査時点では、リカレント教育の内容を調査できなかったが、この常駐業者が学生、卒業生、一般を対象に繁華街の大学所有ビル内でビジネス、IT・情報、マネージメント、起業、管理職などのニーズに対応する。更に資格ニーズにも対応する。未だに女性の自立は難しいと感じる。資格は有効に働いてくれる手段だと考える。もちろん国家資格に勝るものはないが、小さな資格の積み重ねもないよりは良いと考える。リカレント教育の一つに資格取得のための教育があっても良いと考える。

４．まとめ

（1）アンケート調査から

NACS のアンケート調査から 60 歳以下、60 歳以上ともに、リカレント教育に興味を持ち、学ぶ意欲がある。

学びの目的は、60 歳未満では仕事のスキルアップ、生きがいを得るため、60 歳以上では生きがいを得るため、人的なネットワークをつくるためという理由である。

何を学びたいかに対して、60 歳未満、60 歳以上ともに第 1 は育児に関するスキル、第 2 に介護に関するスキルと衣生活に関するとなっている。

（2）聞き取り調査から

Ａ、Ｄ、Ｆのリカレント教育プログラムは、大きく分けて、再就職のプログラムと、リスキリングとがあった。しかし、いずれも 20 名ほどもので人数は少ない。

Ｂは大手企業との連携プログラムで、ビジネススキルに力を入れている。

Ｃは女性が外で仕事をするための心構え、悩み相談、そして女性が外で仕事をするとき必ず悩まされる育児の問題支援を取り入れている。

Ｅは女性がキャリアを生かして働くための資格に力を入れることで、卒業生のバックアップに力

を入れている。

（3）今後のリカレント教育の方向性

高齢化時代が到来し、益々老人人口が増加している。大学でのリカレント教育では、高齢化の中でどうしたら生きがいのある人生を送れるのか、学びから生きがいを持てるような教育を行うべきではないかと考える。再就職、キャリアアップによって、生きがいある人生を送れるのかもしれないが、大学の当初の目的は、考える力を養うことだったはずである。それぞれの大学の建学の精神に戻り、教養（生きるための知恵）が得られるようなリカレント教育であってほしい。具体的にはアンケート調査にもあったような、女性の永遠のテーマである「育児に関するスキル」Cが行っている子どもとの接し方、遊び方なども良いと思う。また、「介護に関するスキル」も高齢化を迎え、切実なるテーマと考える。「衣生活に関するスキル」については、現在、衣服の過剰生産が叫ばれている。それは生産者と消費者の分離によるものである。老後のゆったりした時間、自分の着用するものを製作できたら、至福の時間となるのではないかと考える。その他、文学、歴史、音楽、数学、化学など、の再教育も面白い。

謝辞

本研究は、2022 年度（令和 4 年度）大妻女子大学戦略的個人研究（N2212）の助成を受けたものである。

また、アンケート調査において NACS（公益法人日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談委員協会）の皆様、アンケートを取りまとめていただいた NACS 副会長の永沢裕美子氏、そして聞き取り調査にご協力いただきました各大学の皆様に、この場をお借りして感謝を申し上げる。

引用文献

[1]平井郁子．辻幸恵．“女子大学のリカレント教育の現状と今後の展望”．大妻女子大学人間生活文化研究 Int J Hum Cult Stud.No.32(2022)．p.273-282.

[2]イノベーション・デザイン＆テクノロジーズ株式会社．“社会人の大学などにおける学び直しの実態把握に関するアンケート調査”．文部科学省高等教育局専門教育課・大学振興課．2015.12．p.92-99.

[3]株式会社三菱総合研究所科学・安全事業本部ヘルスケア・ウェルネス事業本部．“「人的資本に関する国内外分析調査」報告書”．経済産業省．2018.3．p.156-186.

[4]文部科学省．“令和 2 年度「女性の多様なチャレンジに寄り添う学びと社会参画支援事業」”．文部科学省．https://www.mext.go.jp/a_menu/ikusei/kyoudou/detail/1376840_00001.htm（参照 2021.3.5）

[5]文部科学省．“令和 2 年度「就職・転職支援のための大学リカレント教育推進事業（就職・転職支援のためのリカレント教育プログラムの開発・実施）」”．文部科学省．https://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/2021/mext_00617.html（参照 2021.3.5）

[6]文部科学省．“マナパス特集：女性のための学び直し”．文部科学省．https://manapass.jp/（参照 2021.3.5）

[7]文部科学省．“職業実践力育成プログラム（BP）認定制度について”．文部科学省．https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/bp/index.htm（参照 2021.3.5）

[8]厚生労働省．“専門実践教育訓練指定講座”．厚生労働省．https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_30663.html（参照 2023.2.17）

[9]高橋千枝子“社会人女性のリカレント教育ニーズに関する調査分析－武庫川女子大学卒業生アンケート調査結果より－”．武庫川女子大学女性活躍総合研究所紀要第 1 号（2022.12）p.23-35.

参考文献

〈1〉 日本女子大学．“生涯学習センター”．日本女子大学．https://llc.jwu.ac.jp/（2023.2.12）

〈2〉 日本女子大学．“GUIDEBOOK 2023”．日本女子大学（2022）

〈3〉 日本女子大学生涯学習センター．“リカレント教育課程”．日本女子大学（2022）

〈4〉 昭和女子大学．“昭和女子大学キャリアカレッジ”．昭和女子大学 https://career-college2020.swu.ac.jp/（2023.3）

〈5〉 昭和女子大学．“SHOWA WOMEN`S UNIVERSITY”．昭和女子大学（2022）

〈6〉 昭和女子大学ダイバーシティ推進機構．“昭和女子大学キャリアカレッジ（SWUCC）”．SWUCC ダイバーシティ（2023.1）

〈7〉 金城学院大学．“女性みらい研究センター”．

金城学院大学（2023.3）
https://mirai.kinjo-u.ac.jp/
〈8〉金城学院大学“臨床相談室”.金城学院大学.
https://www.kinjo-u.ac.jp/ja/about/facility/psychology/
〈9〉金城学院大学.“研究・活動報告”女性みらい研究センター（2018）,（2019）
〈10〉金城学院大学.“2023　大学案内”. 金城学院大学（2022）
〈11〉京都女子大学.“京都女子大学リカレント教育課程”. 京都女子大学
https://rccp.kyoto-wu.ac.jp/rccp/recurrent/
〈12〉京都女子大学.“Annual Report 2021”. 京都女子大学地域連携センター（2022）
〈13〉京都女子大学.“2023 京都女子大学 大学案内”. 京都女子大学（2022）
〈14〉武庫川女子大学.“キャリア教育センター”. 武庫川女子大学（2023.3）
https://www.mukogawa-u.ac.jp/~syusyoku/
〈15〉武庫川女子大学“資格サポート窓口（エクステンション講座）”. 株式会社ワークアカデミー（2023.3）
https://mukogawa-u.manabi-support.jp/
〈16〉武庫川女子大学“MUKOGAWA CAMPUSGUIDE 2023”. 武庫川女子大学（2022）
〈17〉福岡女子大学女性リーダーシップセンター.“リカレント教育”. 福岡女子大学（2023.3）
http://wb2.fwu.ac.jp/leadership/
〈18〉福岡女子大学.“大学案内 2023”. 公立大学法人福岡女子大学（2022）
〈19〉明治大学.“女性のためのスマートキャリアプログラム”. 明治大学
https://academy.meiji.jp/smartcareer/（2023.3）
〈20〉朝日新聞朝刊.“「個」を強くするリカレント教育　明治大学”.（2023.5.31〔18〕）
〈21〉朝日新聞朝刊.“再就職したい女性をサポートー学び直し・人材育成　大学が講座ー”.（2020.7.27〔25〕）
〈22〉青山大学.“女性のための IT リカレント教育プログラム”. 青山学院大学
https://www.aoyama.ac.jp/post05/event_20211001
（2023.3）

（受付日：2023 年 6 月 18 日，受理日：2023 年 7 月 19 日）

平井　郁子（ひらい　いくこ）
現職：大妻女子大学キャリア教育センター教授

大妻女子大学大学院家政学研究科被服学専攻修士課程修了．博士（工学）.
専門：被服材料学.
主な著書：衣服材料学実験書（編著，朝倉書店），衣服材料学（編著，朝倉書店）